

2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 3 月 28 日

所属	人間社会学部	職名	准教授	氏名	齊藤紀子
研究課題	生活支援サービスを提供する有償ボランティアのマネジメントに関する研究				
研究キーワード	有償ボランティア、謝礼金の役割	当年度計画に対する達成度	1.目標を超える研究の進展・成果を達成した		
関連するSDGs項目	11. 住み続けられるまちづくりを	3. すべての人に健康と福祉を	17. パートナリーシップで目標を達成しよう	該当なし	

1. 研究成果の概要

本研究は、①買い物、料理、外出同行などの生活支援サービスを提供する有償ボランティアをめぐる議論の変遷を概観し論点整理を行うこと、②無償ボランティアとの違いとされる金銭的報酬（謝礼金）の役割とは何か明らかにすること、③有効かつ持続可能たりえる生活支援有償ボランティアの活動分野は何かを明らかにすること、を目的として進めてきた。

2022 年度研究において、①については先行研究をもとに有償ボランティアにかかる批判・推進それぞれの立場からの議論を整理し、②については謝礼金の課題と可能性を研究ノートとしてまとめることができた（査読付き、日本福祉教育・ボランティア学習学会 研究紀要に掲載）。③については今後の課題として引き続き 2023 年度も研究を継続していく。

そして本研究の前段階に執筆した共著論文「高齢者を対象とした生活支援サービスのマネジメントシステム構築—活動履歴管理システムの実証実験から得られた示唆」（2017）『千葉商大論叢』第 55 巻、第 1 号、pp.249-258 を参照された京都橘大学健康科学部 研究チームより、学生等の若い世代による高齢者支援を円滑かつ継続的に実施するための要因分析にかかる原稿執筆依頼を受け、これまでの研究成果に基づく原稿を寄稿することができた。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

- ・齊藤紀子（2022）「「有償ボランティア」における謝礼金がもつ課題と可能性—日本における高齢者向け生活支援サービス提供活動に焦点を当てて—」『日本福祉教育・ボランティア学習学会 研究紀要』Vol.39, pp. 141-154.

【著書・論文（査読なし）】

- ・齊藤紀子（2023）「高齢者を対象とした生活支援サービスのマネジメントシステム構築」令和 4 年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業『若い世代（学生等）による高齢者の生活支援に関する調査研究事業 報告書』京都橘学園, pp.108-115

【学会発表等】

なし

3. 主な経費

- ・学会年会費、年次大会参加費、研究会・カンファレンス等参加費
- ・先行事例にかかるインタビュー調査のための旅費

- ・書籍・論文購入費
- ・外付け HDD、プリンター購入費 など

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

ゼミ生とともに取り組んでいる JR 久留里線沿線地域の地域活性化活動・研究の一環として、これまでの成果をもとに下記のとおり基調講演と寄稿を行った。

- ・基調講演「ど根性栽培によるブルーベリー観光農園事業がめざす地域活性化」木更津市制施行 80 周年記念事業 第 22 回全国産地シンポジウム 2022 ブルーベリーin 木更津（2022 年 7 月 1 日於かずさアカデミアホール）
- ・齊藤紀子（2022）「ど根性栽培によるブルーベリー観光農園事業がめざす地域活性化—ソーシャルビジネスが引き起こすソーシャル・イノベーション—」木更津市制施行 80 周年記念事業 第 22 回全国産地シンポジウム 2022 ブルーベリーin 木更津 要旨集, pp. 17-26
- ・齊藤紀子（2023）「加工情報」日本ブルーベリー協会編『ブルーベリーニュース』第 102 号,（近刊）

上記活動・研究のパートナー（エザワフルーツランド、木更津市）をソーシャルビジネスの事例として分析・紹介した教科書第 2 版を執筆した。

- ・齊藤紀子（2023）「サステナビリティ実現に貢献するソーシャルビジネス」千葉商科大学人間社会学部編『はじめての人間社会学（第 2 版）—現代社会と SDGs』中央経済社, pp.175-189

（本文は 2 ページ以内にまとめること）